



Title	癌と人 第40号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2013, 40
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24898">https://hdl.handle.net/11094/24898</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

◎ 題 字 ◎

公益財団法人 大阪癌研究会  
元理事長 千 代 賢 治



＊表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれと呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

第 40 号 目 次

ご あ い さ つ	1
感染症とがん	2
戦場のキュリー夫人	4
微量放射線の発がんリスク ～1ミリシーベルト以下にする除染は必要か～	7
「正しい判断」と「正しいと確信する判断」	10
サイレントキラー	13
多様化する看取り －緩和ケアを通して見えてくるもの－	16
がんの自然治癒	21
がんから分泌される乳酸による 炎症誘導の分子メカニズムの解明	26
EMT による新規がん－正常上皮細胞間 コミュニケーションを介した、 がん悪化促進作用に関する研究	27
肺癌におけるテトラスパニンの 機能解析と治療応用	29
イレッサの新規標的 GAK 阻害による 間質性肺炎誘導機序の解析	30
炎症性腸疾患関連大腸癌における サイトメガロウイルス感染の関与	32
神経幹細胞特異的 DNA メチル化 制御破綻マウスを用いた グリオーマ発症の分子基盤解明	33
Mob1 遺伝子による発生や 発癌の制御機構	35
エピゲノム異常に基づいた 肝発癌予測システムの開発	36
Super-SCID マウスを用いたヒト前立腺がんの 治療効果と安全性評価システムの確立	38
膵癌の浸潤過程に関与する遺伝子群の 同定と分子標的治療への展開	39
微小管作動抗がん剤の 副作用予測診断法の開発	40
癌の浸潤、転移を制御する CXCR4 シグナル経路の解析	41
平成 23 年度事業報告	43
平成 23 年度収支計算書等	46
平成 24 年度寄付者ご芳名	52
平成 25 年度事業計画書	53
平成 25 年度収支予算書	54
公益財団法人大阪癌研究会 役員名簿	56
公益財団法人大阪癌研究会 定款	57